



弘化四年(1821)7月
日光山大明神祭礼繪巻
荒山神社の付け祭り
の様子を描いたもので、
里の一番の馬場町から
三十九番の小伝馬町
までの町内のうち三
三八の町内が八一種
の山車・屋台・練り
物を繰り出している
様子が描かれています。
江戸の天下祭に匹敵
する祭礼であったこ
とがわかります。

宇陽略記

戊辰戦争で失われてしまった
幕末期の宇都宮城下の様子を
知る貴重な資料。寺社や地名
の説明、町内の様子や名所が
描かれているほか、「宇陽昭如」と
して、宇都宮の歴史も書か
れています。「宇陽」とは宇都
宮城下を意味し、古くから好
んで使われています。昭和に
なる宇都宮市の郊外を、陽
東・陽西・陽南・陽北と呼ぶ
ようになり、学校の名前にも
入っています。十二の絵が何
処か、探してみませんか。

大明神石階より

樓門は、安政六年（1859）に建しましたが、一〇年後の戊辰戦で社殿と共に焼失しました。



二荒山馬場先

石段は、弘化三年（1846）に
着商中（組合）が寄進しました。
在と変わらないたたずまいです。



志免じが原花

桜が満開の下宮の丘の辺り。梵鐘、東勝寺にあった「およりの鐘」前と下町に時を告げました。



池上橋

左に伸びる朝日坂。釜川の大谷石の護岸と川端に並ぶ大谷石張りの蔵。現在は都橋と名前を変えています。



池上町
大手町

將軍の日光社参の大行列も、ここから入城しました。鼠穴は、武家地から大手門への一番の近道です。



御山屋敷
庭中

城の離れ屋敷。筑波山塊が一望できる宇都宮で一番の景勝地にあり、初午には町人たちに開放されました。

